

「金色の風」たより

～ 令和5年度 第1号



発刊: 令和5年5月12日

胆江地方「金色の風」サポートチーム事務局 (奥州農業改良普及センター)

TEL:0197-35-6742 FAX:0197-35-6303

「金色の風」Facebook「金色の風」たよりHP

スマートフォンやPCで御覧になれます。是非御確認ください。

←バックナンバー→https://www.pref.iwate.jp/kennan/oshu_noukai/1013684.html

本年は寒暖差は大きかったものの、育苗は病害虫の発生も少なく順調に進んでいました。

1か月予報(5/4気象庁発表)は、日照時間は平年並み、降水量は平年並みからやや多いものの気温は平年より高い予報となっています。今年度の「金色の風」も、昨年以上の出来秋を迎えられるよう、移植直後からの栽培管理を改めて確認しましょう。

今月の「金言」

～ 単収・食味の向上～

・技術上のポイントを紹介し
ます。
・マニュアルがVer7.0に
更新されました！ご確
認ください。

「金色の風」栽培マニュアルは、令和5年2月に改訂され、バージョン7.0になりました。

栽培研究会会員の皆様には、最新版のマニュアルが届いていると思います。マニュアルを一読し、内容を確認したうえで、栽培をお願いします。

なお、直近の栽培管理のポイントは次のとおりです。

【初期生育の確保】栽培マニュアル 10P

栽植密度:60~70株/坪(約18~21株/m²)植付本数:4~5本/株(80~90本/m²)

植付深:稚苗2~3cm、中苗3~4cm程度

高品質で安定した収量を得るには、初期生育と分けつの確保が重要です。R5年2月に実施したアンケートでは、初期生育が遅れる場合や有効分けつを確保できなかった場合に倒伏が高まる傾向にあります。生育の遅れを取り戻すための無理な追肥を行ったこと、また、追肥を適期の減数分裂期にしなかったことなどが原因と考えられます。

移植後数日間の水深は、葉先が2~3cm出る程度で管理しましょう。活着後は、生育促進のため「好天時は浅水」で、「最高気温15℃以下の場合や強風時は深水」で管理しましょう。

日中と夜間の水温較差が大きくなるほど、分けつの発生が促進されます。

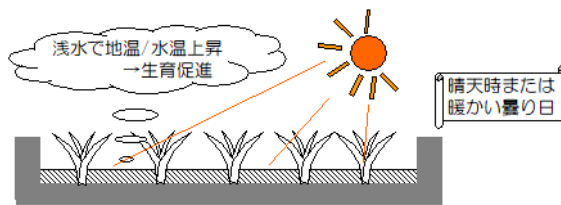


図1 好天時の水管理



図2 低温時または強風時の水管理

□ 昼間止水・朝夕かんがいで、生育を促進させましょう。

□ 以下のような場合には、稲を健全に保つため、状況に応じて水の入替えを行いましょ。

- ・藻類が多発しやすい水田。
- ・水持ちが良すぎる水田。
- ・生わら施用田など、ガスが発生する水田。

胆江地方「金色の風」の取組について

4月11日に「金色の風」レベルアップ検討会が開催されました。JA岩手ふるさと・JA江刺・JAいわて平泉が連携し、「金色の風」の品質向上に向け、今年度の取組を検討しました。

高品質・極良食味の「金色の風」生産に向け、今年度は、農研センター(北上市)での現地研修会の他、JA岩手ふるさと・JA江刺管内での収穫前現地指導会を予定しています。会員のニーズに応える栽培研究会活動を支援していきます。

編集後記

昨年に引き続き「金色の風たより」を担当します。よろしくお祈いします。本年から「5月29日」が「『金色の風』の日」(記念日)となりました。

(奥州農業改良普及センター 主査農業普及員 小館 琢磨)

裏面は、より詳しい栽培管理について記載しています!

本田管理 ～初期生育の確保が倒伏軽減につながります～

「金色の風」の移植適期は「5月10日～5月20日」です。こまめな水管理で初期生育をしっかり確保しましょう。また、**中干し開始時期(6月25日から)**に注意して管理しましょう。

1 1次分げつを確保しよう

「金色の風」は、「ひとめぼれ」と同程度の穂数ですが、1穂粒数が少ないため、収量を確保しにくい品種です。

良質・良食味生産には、主茎(おおもとの茎)や、生育初期に発生する1次分げつ(強勢茎)の確保が重要です。後から出る分げつ(弱勢茎)に比べ、1穂粒数が多く、未熟粒も少ないため、玄米の充実がよく、良質・良食味米になります。

「金色の風」で品質基準をクリアしつつ、目標収量を達成するために、「栽植密度」や「移植後の水管理」を励行し、強勢茎由来の穂の割合を高めることがポイントです。

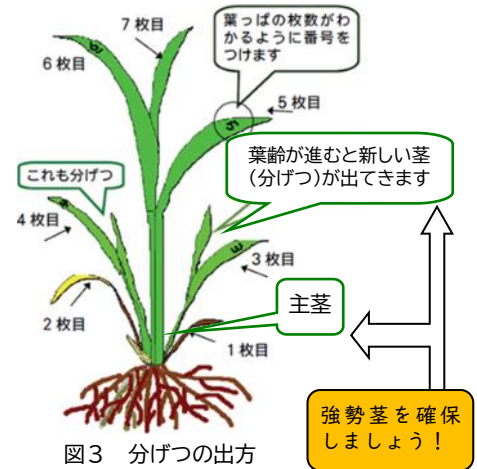


図3 分げつの出方

2 中干し管理について

中干し前までに、目標穂数の8～9割の茎数380～430本/m²(1株当たり20～23本前後)を確保しましょう。目標茎数に達しない場合でも、倒伏防止のため**6月25日頃から「中干し」を開始**しましょう。

☆ ワンポイントアドバイス

Q1 田植え後、活着や初期分げつの発生が遅く、生育が遅れている。

- ➡ 水温や地温が低い可能性があります。活着は水温が16℃～30℃で促進され、この範囲内で水温が温かいほど、活着や分げつ発生が進みます。好天時は浅水管理で地温を上昇させましょう。
- ・ガスが湧いていませんか？稲わらの腐熟が不十分な場合、地温の上昇とともにガスが発生します。水の入替えや鉄資材の投入を検討しましょう。

Q2 6月中旬で目標茎数(380～430本/m²(20～23本/株))を超えている。

- ➡ 後から発生した分げつは穂にならない無効分げつとなり、青未熟やくず米が発生しやすくなります。**6月25日より前に**中干しを開始し、無効分げつの発生を抑制しましょう。

ワンポイントアドバイス ～中干し・追肥～

- 茎数が目標穂数の8～9割(茎数380本/m²、20本/株前後)になったら中干しを開始します。
 - ⇒ 7月に入ると梅雨で田面が乾き難い場合が多いため、6月25日頃までには中干しを開始できるよう、初期生育の確保に努めましょう。
- 落水を促し、田面に細かい亀裂が生じ、軽く踏んで足跡が付く程度まで乾燥させましょう。併せて、中干しの効果を高めるため、溝切りを行いましょう。
- 中干し終了直後は差し水⇒間断灌漑に移行し、幼穂形成期までに常時湛水とします。
 - ⇒ 根腐れ防止のため、中干し後は徐々に湛水しましょう。急な湛水は厳禁です。
- 追肥をする場合は、減数分裂期(7月下旬)追肥を基本としましょう。幼穂形成期の追肥は避けましょう。
 - ⇒ 幼穂形成期追肥は、穂長が大きくなり、また、稈が伸びやすく倒伏しやすくなります。